

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024, 2025	1	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024, 2025	1	必修	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024, 2025	1	必修	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ICT スキル I (多文化・再履修含む)	前期(半年)	A02100525752A

教員名
江川 明美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	WEBサイトの構築やプログラミング、PC、ネットワーク管理において蓄積した実務経験を活かし、実践的な情報通信技術（ICT）スキルを解説します。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択
------------	-----------	-----------------	-------------

授業の概要

本科目は、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の恩恵とリスクを理解した上で、学生生活及び社会生活において適切なデバイスやサービスを選定し活用するための基礎知識を身につける。ICTを活用するための具体的手法を学ぶことで、以後の学習やキャリア形成において求められるICT利活用に関する基礎的知識とスキルを修得する。また、情報メディアを主体的に読み解いて必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、評価・識別できる力としてのメディアリテラシーを修得する。合わせてレポート作成等に求められるタイピング、文書作成およびプレゼンテーションソフトウェア使用のための基礎技能を身につける。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

本学入学前に情報処理・パソコン関連の資格を取得している場合は資格名・級がわかる書類（合格通知のコピー等）を提出すること。また、学習に使用できるパソコンを所有している場合は、OSの種類とOffice（Word、Excel、Power Point）の有無とバージョンを確認しておくこと。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	1. ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の恩恵とリスクを理解する。 2. 生活において適切なデバイスやサービスを選定し活用するためのICTに関する基礎知識を身に付ける。 3. タイピングの基礎技能を身につける。ゴールドフィンガースクール活用 4. 文書作成（Word）、表計算機能（Excel）、プレゼンテーション（Power Point）ソフトウェアを使用するための基礎技能を身につける。
知識・技術力		
コミュニケーションスキル		
社会的関係形成力		
多文化理解力		
問題解決力		
自己実現力		

講義等の計画

第1回 テーマ： ・オリエンテーション ・classroomについて 1章 コンピューターの基礎とインターネットの活用 ・1-1 大学生活とコンピューターの関わり OS検定試験について	
第2回 テーマ： 日本語入力 演習1-2-1 半角英数の文章入力しよう 演習1-2-2 ひらがな・カタカナ・記号の文章入力しよう 演習1-2-3 文章入力しよう	
第3回 テーマ： ブラウザー 演習1-3-1 所属する大学の図書館サイトで本を探そう 演習1-3-2 国立国会図書館の蔵書検索システムで本を探そう	
第4回 テーマ： 電子メール 演習1-4-1 電子メールの署名を作成しよう 演習1-4-2 電子メールを送信しよう [メールマナー] SNS／セキュリティモラル／データの管理 演習1-5-1 大学からの情報発信をフォローしよう 演習1-6-1 セキュリティ・モラルに関するWebサイトを見よう 演習1-7-1 いつも使っているメディアを確認しよう	
第5回 テーマ： 2章 文書作成の基本 2-1 基本の操作 演習 2-1 書式設定・文字列の配置／インデントと箇条書き・段落番号 ビジネス文書・あいさつ文の作成	
第6回 テーマ： 2-2 表作成 演習2-2 段落に罫線を引こう・罫線を引いて表を作成しよう（申込書作成） 表を挿入しよう・いろいろな表を作成しよう 表のある文章を作成しよう（案内文書作成）	
第7回 テーマ： 2-3 図形操作 演習2-3 基本図形を利用しよう・図形で地図を作成しよう・チラシを作成しよう 2-4 複数ページの文書作成と印刷 演習2-4 ヘッダー・フッターの設定をしよう・複数ページの文書を作成（レポート作成）	
第8回 テーマ： ★OS検定試験（コンピュータサービス技能評価試験）について 概要と演習 ワープロ編	
第9回 テーマ： Word確認テスト	
第10回 テーマ： 3章 表計算 基本の操作と計算式 演習3-1 基本操作・データ入力と計算式・計算式の参照先を固定しよう 表の書式を整えよう・表の印刷	
第11回 テーマ： 基本の関数 演習3-2 合計・平均・最大値・最小値を求めよう 演習3-3 データの個数を求めよう・数値の順位を求めよう	

条件に応じて処理を変えよう・条件に合うデータの個数を求めよう	
第12回 テーマ： いろいろなグラフ 演習3-4 棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ・積み上げ棒グラフを作成しよう	
第13回 テーマ： データ処理 演習3-5 並べ替え・テキストデータ・数値データの抽出	
第14回 テーマ： 4章 プレゼンテーション スライドの作成／演習4-2 プレゼンテーションスライドの作成・プレゼンテーションスライドに発表原稿を追加しようプレゼンテーションを発表しよう 配布資料を作成しよう・スライドのデザインを変更・スライドの配色、スマートアートの挿入 ポスター・展示用データの作成／演習4-3 展示用のポスターを作成しよう	
第15回 テーマ： 総括／★CS検定試験（コンピュータサービス技能評価試験）について 概要と演習 表計算編 試験補講期間 別日：Excel確認テスト実施	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

本科目は、演習形式の科目（週1回開講により半期で1単位）である。授業外学習として指示された演習課題は解答データを作成し指示に応じて提出すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に提出した課題データについては、次回以降の授業時間の演習において修正箇所等を指示する。

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	☐	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	☐	
グループワーク	☐	
プレゼンテーション	☐	
実習、フィールドワーク	☐	
その他のアクティブラーニング	☐	

この授業で活用する外部試験

☒ 実施している ☐ 実施していない

成績評価基準・方法

提出課題（Word・Excel・PowerPoint等の演習課題）を40点・期末テスト、Word20点・Excel20点、授業への参加状況を20点（欠席は4点減点、遅刻は時間に応じて減点）として評価する。3分の1を超える欠席がある場合、単位が認定されないので注意すること。

教科書

[【演習】アカデミックスキルとしてのICT活用 第2版](#) 著者：木野富士男 著，高橋尚子 監修
出版社：技術評論社 出版年度： ISBN：978-4-297-133

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・本科目は週1コマ全15回の授業により構成される。一定以上の情報処理スキルを有する場合は習熟度に応じた個別課題を用いる場合がある。
- ・ＣＳ検定試験資格取得について、受験を希望する場合は、語学情報センターにて申込みを行う。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018	2	必修	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	2	必修	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	必修	1
経済政策学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024	2	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	2	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2020, 2021, 2022	2	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024	2	選択	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2019, 2020, 2021, 2022	2	必修	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023, 2024	2	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
就職活動スキル I	前期(半年)	A02200725004A

教員名
山口 晴信

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	株式会社AIM 代表取締役 長崎大学 非常勤講師 (キャリア教育) 長崎純心大学 非常勤講師 (キャリア教育) 長崎総合科学大学 客員研究員 非常勤講師 (キャリア教育) 鎮西学院大学 非常勤講師 (キャリア教育) 上記のほか、多数の大学でキャリア講演実施 企業向け・保護者向けの採用支援講演やコンサルも多数実施 採用担当者としての経験もあり キャリア教育経験、25年以上 接点を持ってきた学生、のべ数千人 従来からの就活のやり方で苦しんでいる学生へ新たな手法を提唱 「抽象的やりたいこと」から始めるキャリアデザインの意義と重要性を解説する これまで多くの学生と企業(公務員等含む)とのマッチングを成功させてきた経験をもとに、キャリアに対する向き合い方、心構え、成功例・失敗例、その法則性や科学的根拠なども解説する 元 長崎県キャリアコーディネーター

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択
------------	-----------	-----------------	-------------

授業の概要

就活と聞くと気が重くなる人も多いのではないのでしょうか。
この授業は「学び」により重い気持ちを少しでも楽にするための内容でもあります。
高校受験や大学受験と同様に就活には準備が必要となります。知識や理論も必要で、もはや一つの学問と言

っても過言ではありません。そして習得には思った以上に時間や手間がかかります。焦る必要はありませんが、時期になってから学び始めるのは推奨できません。その時、周囲は「習得済み」の人であふれています。

「就活」と聞き、2年生にとっては「まだまだ先…」というイメージがあるかもしれません。何をすればいいかが明確になっている人は少ないでしょう。だからこそ体系的に学ぶ必要があります。

採用側が求める人物は「単なる成績がいい人」ではありません。これらを含め、学生の皆さんが思っている以上に全体像を知る必要があります。

社会人としての言葉遣いやマナー、服装、メールの書き方なども求められます。よって早い時期にこれらの振る舞いを学び、時間をかけて習慣化していきましょう。

完璧にする必要はありません。

完璧な人間でなくてもかまいません。

しかし、就活が本格化する前に成長していきたいと思いませんか？

それには我流ではなく、理論に則って学ぶことをおすすめします。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

パソコンの基本的操作

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	2	就活の全体像が理解できる
コミュニケーションスキル	2	就活に必要な知識、全体の流れやルール、マナー等を理解できる
社会的関係形成力	2	就活に対するネガティブイメージや思い込みを減らすことができる
多文化理解力	2	今の自分の立ち位置と社会から求められる人物との差を理解できる
問題解決力	2	差に対して「今できること」を理解できる
自己実現力	2	完璧な人間でなくてもいいことを理解できる
		就活や将来への選択において、恐怖感や抵抗感を緩和できる
		行動計画を立て、実際に行動することができる

講義等の計画

第1回 テーマ： 就活のイメージ、働きたいと思う企業等、やりたいことなどについて現時点での自分の考えに向き合ってみる。 さらにそれらについて考察する。	キーワード：導入・イントロダクション
第2回 テーマ： 就活についてのネガティブな思い込み、迷信について事例を踏まえて理解する。 就活に対する恐怖感などを軽減する。	キーワード：就活の迷信
第3回 テーマ： 就活のルール、各種解禁日、昨今のトレンドについて理解する。	キーワード：就活ルール
第4回 テーマ： 就活がうまくいく人、うまくいかない人の共通点。 陥りがちな落とし穴を理解する。	キーワード：うまくいく人、いかない人
第5回 テーマ： マナーは何のため？ ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション。	キーワード：就活マナー
第6回 テーマ： ビジネスメールの書き方、よくある間違い。まずは練習としてメールを書いてみる。	キーワード：ビジネスメール1
第7回 テーマ： 実際に書いてみたメールに向き合い、見直す。フィードバックを受けて修正を試みる。	キーワード：ビジネスメール2
第8回 テーマ：	キーワード：エントリーシート1

エントリーシートとは何かを知る。まずは練習として書いてみる。	
第9回 テーマ： 書いてみたエントリーシートについて振り返る。何が難しかったか、なぜ難しいのか。相手に響くエントリーシートとは。	キーワード：エントリーシート2
第10回 テーマ： 企業が求める人物像について、実際に発信されているメッセージを理解する。学生が見落としがちな「もう1つの力」について理解し、それをエントリーシートでどう表現するかを考える。さらに、これから何をしたらいいかについて考える。	キーワード：企業が求める人物像
第11回 テーマ： インターンシップについて説明。参加するメリットや意義を理解する。インターンシップはもはや採用活動の一環にもなっていることを理解する。参加に対する抵抗感をできるだけ少なくする。	キーワード：インターンシップ1
第12回 テーマ： インターンシップを実施する地元企業をゲストに迎え、カリキュラムや実施後の学生の変化について講話を受ける。	キーワード：インターンシップ2
第13回 テーマ： 同上	キーワード：インターンシップ3
第14回 テーマ： 行政からゲストを迎え、地元長崎の最新の動向や働く環境について知る。県独自のサポート体制やナビサイト、認定制度などを知る。	キーワード：地元長崎について
第15回 テーマ： 今後、就活の時期が近づくにつれて自身はどのような考え方を持てばいいのか。さらに何をすればいいのか、行動の指針や今後の行動計画について考える。	キーワード：まとめ

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習：世の中のニュースや記事、データなどを事前に調べる（0.5h）
 各種ナビサイトや情報サイトにて最新の就活トレンドを知る（0.5h）
 先輩から体験談を聞いたり、友人などと情報交換をする（0.5h）
 復習：学んだマナーやメールの書き方などを普段から意識し活用する（0.5h）
 いまできることを理解し、行動計画を立てることができる（0.5h）
 授業内で学習した知識や各種理論、科学的根拠についてインターネットなどで調べて理解を深める（0.5h）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

GoogleClassroomからの小レポートやふりかえりについて、必要に応じて次の授業で解説やフィードバックを行う

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	自身の考えやその背景について互いにシェアし合い、フィードバックを得ることでブラッシュアップを図る 企業や公的機関などからゲストを迎え、地元や企業の可能性を知る
グループワーク	
プレゼンテーション	
実習、フィールドワーク	
その他のアクティブラーニング	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している
 ☒ 実施していない

成績評価基準・方法

授業参加度 30%

アウトプットやディスカッションへの積極的参加、毎回の小レポート 20%

今後の行動指針や具体的行動計画、心構えなどの最終レポート課題 50%

教科書

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称
1 Webサイト：就活スケジュールと進め方
2 Webサイト：就活マナー
3 Webサイト：Nなび
4 書籍：世界一やさしい「やりたいこと」のを見つけ方
5 書籍：科学的な適職

履修上の注意事項や学習上の助言

対面での授業を前提としていますが、やむを得ない事情がある場合オンライン授業等に切り替えることがあります。

就活のイメージが湧かない人、就活に抵抗感がある人、怖い人、何をすればいいか分からない人等はぜひ受講して下さい。

就活の流れや今行うこと等が理解できることで気持ちも楽になります。

社会人としてのマナーや振る舞いも理解でき、自信や周囲からの信頼にも繋がります。

※各回の内容は、受講者数やゲストの状況によっては多少アレンジする場合があります。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018	1	選択	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	1	選択	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	1	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	1	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2020, 2021, 2022	1	選択	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2019, 2020, 2021, 2022	1	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
英語 I B (再履修)	後期(半年)	

教員名
池田 祐香

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	高等学校での教育経験がある授業担当者が、その経験を活かして、リメディアル教育の手法を取り入れた授業を展開する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択
------------	-----------	-----------------	-------------

授業の概要
日常的なテーマを取り上げ、4技能（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング）を取り入れたアクティビティを通して、基礎的な英文法の習得、使用頻度の高い語彙や表現の習得を目指す。動画視聴、検定試験対策も取り入れる。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
英語 I A

学習上の到達目標	授業の到達目標
達成評価指標	レベル
知識・技術力	1
コミュニケーションスキル	1
社会的関係形成力	1
多文化理解力	1
問題解決力	1
自己実現力	1

講義等の計画

第1回 テーマ： オリエンテーション	
第2回 テーマ： 文の種類	
第3回 テーマ： 時制（１）現在形・現在進行形、過去形・過去進行形、未来形	
第4回 テーマ： 時制（２）完了形	
第5回 テーマ： 助動詞（１）能力・可能・許可、必要・義務・当然・忠告、依頼・提案・勧誘、可能性・推量	
第6回 テーマ： 助動詞（２）助動詞+have+過去分詞、助動詞を含む慣用表現	
第7回 テーマ： 態	
第8回 テーマ： 中間試験	
第9回 テーマ： 不定詞	
第10回 テーマ： 動名詞	
第11回 テーマ： 分詞	
第12回 テーマ： 関係詞	
第13回 テーマ： 比較	
第14回 テーマ： 仮定法	
第15回 テーマ： まとめ・最終試験	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

復習課題・検定試験対策課題等、約２時間程度の授業外学習を必要とする。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

添削したうえで返却

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	☐	具体的な内容 グループ課題を与えることがある。
ディスカッション、ディベート	☐	
グループワーク	☒	
プレゼンテーション	☐	
実習、フィールドワーク	☐	
その他のアクティブラーニング	☐	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している
☒ 実施していない

成績評価基準・方法

受講態度及び振り返り15%
 復習課題15%
 資格試験対策課題20%
 中間試験・最終試験50%

教科書

ハンドアウト配布

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

辞書

履修上の注意事項や学習上の助言

英語学習においては授業外学習が欠かせないので、課題をこなす必要があることを心得ること。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024, 2025	1	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024, 2025	1	必修	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024, 2025	1	必修	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ウェルビーイング	前期(半年)	A03101525702Z

教員名
裴 瑠俊

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
	第2回から第4回にかけての3回分の授業について、学外の各分野の専門家・実業家などをゲストスピーカーとして招き講義を行う。詳しくは下記「講義等の計画を参照。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

国連がWHO憲章に掲げている「Well-Being（ウェルビーイング）」の定義は、「単に病気や虚弱がない状態だけでなく、人種、宗教、政治的・経済的・社会的な条件に関係なく、すべての人が持つ基本的な権利の一つであり、身体的、精神的、社会的に完全に健康で幸せな状態」である。この定義は、人間の健康と幸福を幅広く捉えた概念として、SDGs（持続可能な開発目標）とも深く結びついている。世界中のすべての人々がこの状態を実現するためには、世界の平和と安全が保たれる必要があり、そのためには個人や国家の努力と協力が欠かせない。

この目標を個人レベルで考えると、「より良く生きようとする、より良くあり続けようとする」がそのスタート地点である。この思いが個人を超えて家族や地域、企業や組織、さらには国境を越えて人類全体に広がり、共有されるならば、個々人の「より良くありたい」という思いは、より良い地域づくりやまちづくり、環境づくりに向けた指針と一致していくことになる。

そこで、本講義では、普段から「より良く生きよう」と努力されている方々や、さまざまな分野で「いきいきと生きている」地域の活動家や実践者をゲストスピーカーとして招き、ご自身の生き方や活動内容、多文化共生（地域社会における共生）の考え方について語っていただく。これを通じて、学生自身が自分の生き方を振り返り、自分らしさを形成していくことを目的としている。そのため、学生には講話内容を振り返り、グループ発表を通じてその考えを互いに共有する形式を採用している。発表グループの構成は、留学生のみのグループ（5名以内）を一つ以上、または、留学生と日本人学生の混合グループを編成することを考慮する。そして、ポスター発表や口頭発表の内容においては、（多文化共生（地域社会における共生）と関連する内容を含むようにする。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

・1年次には、哲学、倫理学、社会学基礎などの教養科目と並行して履修することをお勧めします。履修後には、2年次の日本史、外国史などの教養科目についても続けて関心を持ってください。さらに、共生社会論の科目にも関心を持って履修してください。履修に必要な予備知識の習得のため、日ごろの国内のニュースや国際の経済・社会等の事情、多文化共生（地域社会における共生）などについても関心を広げてください。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	1. 人がよくあろうとする、よりよく生き続けようとするときの行動指針を学ぶ。 2. 地域の活動家や実践者の生き方を通して、自らの行動指針やレジリエンスを養う。 3. 「ウェルビーイング」を目標に据えた事業経営や地域づくりの実践課
知識・技術力		
コミュニケーションスキル		
社会的関係形成力		

多文化理解力		題（多文化共生（地域社会における共生）を含む）を見出す。
問題解決力		4. 自分の生き方や自分らしさを自覚し形成していくことを目的とし、グループ発表（多文化共生（地域社会における共生）を含む）を通じてその
自己実現力		考えを互いに共有する。

講義等の計画

第1回 テーマ： (5月30日)オリエンテーション（「ウェルビーイング」を学ぶ意義と目的、科目運営の説明）学部長	キーワード：オリエンテーション
第2回 テーマ： (6月6日)「海外協力隊（JICA）と福祉でまちづくり…その生き方とは」ながよ光彩会 理事長 貞松 徹 氏	キーワード：海外（JICA）から見た日本・福祉
第3回 テーマ：（6月13日）「地域活動と私…その生き方とは」 諫早こども応援団事務局長 峯友清博 氏	キーワード：地域活動と私
第4回 テーマ： (6月20日)「SDGsと私～その生き方とは」 長崎県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長 奥村 公子氏	キーワード：SDGsと私
第5回 テーマ： (6月27日) 多文化共生（地域社会における共生）の意味を整理した後、グループ発表の準備の打ち合わせ、作成（ベイ、岩永秀徳）	キーワード：多文化共生（地域社会における共生）の意味の整理、グループ発表の準備
第6回 テーマ： (7月4日) グループ発表物（PPT・ポスター）の完成（岩永秀徳・ベイ）	キーワード：グループ発表物の作成、多文化共生（地域社会における共生）を含む
第7回 テーマ： (7月11日) グループのポスター発表（ベイ、加藤、銭坪、岩永）	キーワード：ポスター発表、多文化共生（地域社会における共生）を含む
第8回 テーマ：（7月25日）総括・作文作成 「題名：人は何で生きるか」	キーワード：作文（人は何で生きるか）

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習：予想される講義内容について、関連文献やインターネット等を活用し事前学習を行っておく
復習：講義で使われた専門用語を辞書等で調べ、講義ノートに記載する

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Googleクラスルームを通して、振り返りの内容について、その都度必要に応じてコメントを行う。

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	☒	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	☒	1. 第2回から第4回にかけて、学外の各分野の専門家・実業家などをゲストスピーカーとして招き講義を行う。 2. 講義を先に受けた後、◆を一つ以上、または、留学生と日本人学生の混合グループを編成することを考慮する。そして、ポスター発表や口頭発表の内容においては多文化共生（地域社会における共生）を含むようにする。 4. ポスター発表や口頭発表の内容には、多文化共生（地域社会における共生）を含むようにする。
グループワーク	☒	
プレゼンテーション	☒	
実習、フィールドワーク	☐	
その他のアクティブラーニング	☐	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している ☒ 実施していない

成績評価基準・方法

1. 積極性（出席・参加度）・振り返り 37% ※1
①積極性 16%（1回2点X8回）
②振り返り 21%（1回3点X7回）

2. 授業中の課題への取り組みと提出 63%

- ① グループワーク 3% (第1回) ※1
- ② 質問 12% (1回4点X3回: 第2・3・4回目) ※1
- ③ グループ発表の準備 10% (ポスター発表の目次と役割分担) ※1
- ④ グループ発表物 14% ※2
- ⑤ グループ発表 14% ※1
- ⑤ 総括作文10% ※1

※1 (授業時間内に提出のみ、評価する。未提出・遅れ提出は0点評価)

※2 (指定期限内に提出、未提出0点、遅れ提出は3点減点)

教科書

教科書は特になし。随時、関連資料等を配布する。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

随時、関連資料等を配布する。

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・本科目は、日本語教師養成課程科目にも含まれる。
- ・教科書特になし。必要に応じ関連資料等を配布する。
- ・毎回、ウエルビーイングの実現に向けた関心度や積極性を、質問や振り返り、発表を通して評価を行う。(上記の成績評価基準・方法を参照)
- ・学則上、3分の2以上の出席が求められる。(5回以上出席必要)
- ・個人ワークやグループワークが、講座の目標達成のため、必要に応じて行われるが、その活動に関わる際に、気になることがある場合、遠慮なく、事前にご相談ください。

[戻る](#)

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	3	選択	1
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2010, 2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	1
社会福祉学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	3	選択	1
社会福祉学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2020, 2021, 2022	3	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	3	選択	1
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	3	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
介護技術演習 a (水4限)	前期(半年)	A03304025044A

教員名
田川 美由紀

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	看護師としての実務経験また現在運営しているデイサービスでの実例を取り上げ、介護技術の実際を受講者がイメージできる演習を心がけながら理論や原理を解説する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択
------------	-----------	-----------------	-------------

授業の概要
本授業では、ICFの視点に基づいて、「その人」に対する生活支援を理解するとともにエビデンス（科学的根拠）に基づいた介護技術の習得を目指す。その為に、以下を学ぶ。 ①その人の生活場面でのADLは、複数の絡み合った行動である。 ②その人の残された能力や隠れている力を最大限に活用しながら、その人自身の意思で生活の目的や目標を見つけだす支援を行うためにアセスメントを行う。 ③①②を理解した上で、その人に応じた技術習得を行う。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
介護概論、高齢者及び障害者の生活支援、コミュニケーション技術、医学一般など

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	1. ICFの視点に基づいて、「その人」に対する生活支援を理解できる。 2. ICFの視点に基づいて、「その人」に対するアセスメントができる。 3. 「その人」に対するエビデンス（科学的根拠）に基づいた介護技術を習得できる。
知識・技術力	3	
コミュニケーションスキル	3	
社会的関係形成力	2	
多文化理解力	2	
問題解決力	2	
自己実現力	2	

講義等の計画

第1回 テーマ： 1. 科目の目的・目標 2. 介護技術における基礎知識 3. ICFの視点に基づく生活支援	キーワード：介護技術 基礎知識 専門用語 ICF
第2回 テーマ： 1. 安全管理 感染防止	キーワード：K Y T 事故防止 標準予防対策
第3回 テーマ： 1. コミュニケーション 2. 記録・報連相	キーワード：アサーティブネス
第4回 テーマ： 1. ボディメカニクス 2. ベッドメイキング	キーワード：原理 体感
第5回 テーマ： 1. バイタルサイン	キーワード：体温・血圧・呼吸・脈拍・SpO2
第6回 テーマ： 1. 嚥下のメカニズム 2. 食事介助 3. 口腔ケア	キーワード：嚥下のメカニズム 誤嚥とは
第7回 テーマ： 1. 清潔保持（手浴 足浴 マッサージ）	キーワード：保温・不感蒸泄 副交感神経
第8回 テーマ： 1. 寝返り、起き上がり、端坐位、立ち上がり介助	キーワード：ボディメカニクス
第9回 テーマ： 1. 移乗介助（車いすへ・椅子へ）	キーワード：ボディメカニクス 車椅子
第10回 テーマ： 1. 移動介助（歩行・杖・車いす）	キーワード：ボディメカニクス 車椅子杖
第11回 テーマ： 1. 衣服着脱介助	キーワード：麻痺のある人の介助
第12回 テーマ： 利用者の心身の状況の理解とその人にあった技術 ①	キーワード：アセスメント 事例検討 課題：利用者のアセスメント
第13回 テーマ： 利用者の心身の状況の理解とその人にあった技術 ②	キーワード：その人にあった技術 課題：体位変換 衣服着脱 移動技術
第14回 テーマ： 利用者の心身の状況の理解とその人にあった技術 ③	キーワード：その人にあった技術 課題：体位変換 衣服着脱 移動技術
第15回 テーマ： 利用者の心身の状況の理解とその人にあった技術 ④ 技術試験 講評	キーワード：その人にあった技術 技術試験

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習：事例に関して、既習科目を想起しその人の理解ができるようまた、ディスカッションができるように準備しておく。

復習：事例の人をイメージしながら自己練習を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に対して、演習やディスカッションを実施の際にフィードバックする。
技術試験に対して、試験終了後に講評を行う。

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	☐	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	☒	自己学習を行った課題に対して、グループワーク及びディスカッションを行う。更にグループでまとめたものをプレゼンする。
グループワーク	☒	
プレゼンテーション	☒	
実習、フィールドワーク	☒	
その他のアクティブラーニング	☐	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している ☒ 実施していない

成績評価基準・方法

技術試験及び技術習得への取り組み60点 筆記試験40点

教科書

二訂第2版 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第4巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

総括として技術試験を実施します。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2021, 2022	1	選択	2
経済政策学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024, 2025	1	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 福祉の基礎科目	2021, 2022	1	選択	2
社会福祉学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024, 2025	1	選択	2
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, 教養科目	2023, 2024, 2025	1	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
心理学と心理的支援	前期(半年)	A03102525681Z

教員名
開 浩一

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	福祉現場でカウンセリングをしてきた経験を活かしながら心理学を紹介していきます。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択
------------	-----------	-----------------	-------------

授業の概要
心理学とは、人間の行動や精神的過程を科学的に探求する学問です。この授業では、発達心理学、学習心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深めていきます。 また、ソーシャルワーク実践において求められる心理学の基礎的知識と心理的支援の実践の理解を一体的により深めていきます。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
・心理について学びたいという好奇心があることが望ましい。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	1	知識技術力 心理学の観点から、人の心や行動を理解できる。
コミュニケーションスキル	1	コミュニケーションスキル グループワークを通して自分の考えを相手に伝えるように伝え、相手の話にも耳を傾けられる。
社会的関係形成力	1	社会的関係形成力 他者を尊重した関係をつくることに役立てられる。
多文化理解力	1	多文化理解力 自分とは異なる文化的背景をもつ人の理解に役立てられる。
問題解決力	1	問題解決力 心理的支援の方法と実際を学び、自分や人の問題を未然に防いだり、問題を解決するために応用できる。
		自己実現力

自己実現力	1	他者評価に依存しすぎることなく、自己肯定感を自分で育めるようになる。
-------	---	------------------------------------

講義等の計画

第1回 テーマ：心理学の定義、歴史、研究法・対象 心を探究する方法の発展	キーワード：心理学の起源と発展、研究法など
第2回 テーマ：脳・神経の働き	キーワード：神経、脳機能、遺伝など
第3回 テーマ：心理的発達	キーワード：発達の基本的理解、認知発達理論、ライフサイクル、言語発達、アタッチメント理論など
第4回 テーマ：知覚	キーワード：感覚・知覚、知覚の情報処理過程
第5回 テーマ：学習と条件付け	キーワード：レスポナント・オペラント条件付け、社会的学習など
第6回 テーマ：情動	キーワード：ジェームス・ランゲ説、キャノン・バード説など
第7回 テーマ：動機づけ	キーワード：欲求階層説、内発的・外発的動機づけなど
第8回 テーマ：記憶・知能	キーワード：短期・長期記憶、知能検査、など
第9回 テーマ：意識	キーワード：無意識、夢、睡眠など
第10回 テーマ：パーソナリティ	キーワード：性格検査、類型論、特性論など
第11回 テーマ：ストレス・健康・コーピング	キーワード：ストレス、コーピング、レジリエンス、PTGなど
第12回 テーマ：精神障害	キーワード：心理アセスメント、精神障害など
第13回 テーマ：精神障害の治療	キーワード：ソーシャルワーカー、公認心理師、精神分析、応用行動療法、認知行動療法など
第14回 テーマ：社会の影響	キーワード：自己、対人関係、集団、組織など
第15回 テーマ：心理学まとめ	キーワード：心理学まとめ

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

夢実験の課題：自分がみたい夢を実際にみることができるか1週間試みる課題です（第9回授業の課題）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業においてフィードバックシートの提出を義務付けています。

この授業に含むアクティブラーニング要素		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	☐	
ディスカッション、ディベート	☒	
グループワーク	☒	
プレゼンテーション	☐	
実習、フィールドワーク	☐	
その他のアクティブラーニング	☐	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している ☒ 実施していない

成績評価基準・方法

授業への参加状況、取り組み態度40%
試験60%

教科書

毎回、PDF資料を配信します

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

- 1 [無籐隆、森敏昭、遠藤由美、玉瀬耕治、（2018）、心理学、有斐閣](#)
- 2 [Nolen-Hoeksema, S., Fredrickson, B. L., Loftus, G. R., & Lutz, C. \(2014\). 16 th edition Atkinson & Hilgard Introduction to Psychology](#)
- 3 [一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、（2021）、最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座、心理学と心理的支援、中央法規](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

【社会福祉学科の皆様へ】

本科目は、社会福祉士、及び、精神保健福祉士の共通科目となります。資格取得希望者は必ず履修してください。

【多文化コミュニケーション学科や経済政策学科の皆さんへ】

この科目は、福祉の資格取得に関わる科目であるため、国家試験の問題についても授業内で紹介することをご了承ください。ただし、心理学を基礎からわかりやすく学べる授業となります。心理学に興味のある方が受講の対象となります。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
経済政策学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	3	選択	2
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2020, 2021, 2022	3	選択	2
社会福祉学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	3	選択	2
多文化コミュニケーション学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
人体の構造と生活機能	後期(集中)	A03304225046Z

教員名
黒田 美穂

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	看護師の経験から人の構造と心身機能の基本的な知識を解説する。また、亜急性期病棟（リハビリ病棟）やMSWでの経験を生かし、ICFを用いて生活機能の実践的な理解を深める教育を行う。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択
------------	-----------	-----------------	-------------

授業の概要
介護を実践する際に求められる心理・人体の構造に関する基礎的な事項を中心に学ぶ。また、生活行動と人体との関係を学ぶことにより、自立生活を支援するための介護ニーズに適切に活用できる能力の向上を目指します。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
・

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	1) 自立生活を支援するために必要なところとからだの基礎的な知識を習得する。 2) 人体の機能と基礎的な生活行動との関係について概要を理解する。(ICFの理解も含む)
知識・技術力	3	
コミュニケーションスキル	3	
社会的関係形成力	2	
多文化理解力	2	
問題解決力	2	
自己実現力	2	

講義等の計画
第1回 テーマ :

オリエンテーション、人間のこころとからだのしくみ（１）	
第2回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（２）	
第3回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（３）	
第4回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（４）	
第5回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（５）	
第6回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（６）	
第7回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（７）	
第8回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（８）	
第9回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（９）	
第10回 テーマ： 人間のこころとからだのしくみ（１０）	
第11回 テーマ： ICFの理解（１）	
第12回 テーマ： ICFの理解（２）	
第13回 テーマ： ICFの理解（３）	
第14回 テーマ： ICFの理解（４）	
第15回 テーマ： ICFの理解（５）	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

基本的には事前学習は不要ですが、授業の振り返り（自宅での復習）は毎回行って頂きたいと思っています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	☐	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	☒	新型コロナウイルス予防のため、講義形式での講義となります。（コロナ感染の状況次第でGoogle Classroomに切り替えることもあります。）
グループワーク	☒	
プレゼンテーション	☐	
実習、フィールドワーク	☐	
その他のアクティブラーニング	☐	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している ☒ 実施していない

成績評価基準・方法

授業態度及びレポート、筆記試験で総合的に評価します。筆記試験は記述式とし、試験範囲は事前に発表します。

教科書

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・ 授業の資料はペーパーレスとし、Googleクラスへアップ致しますので、授業中にパソコンやスマホで資料を閲覧可能です。
- ・ 履修時、風邪症状及び発熱など体調不良がある方の出席は基本的にはご遠慮下さい。（事務所とご相談下

さい。)

- ・履修時は必ずマスク着用し、私語は謹んで下さい。
 - ・社会福祉士、精神福祉士資格取得レベルのための講義を行います。介護の教職員を目指される方、介護福祉士を目指す方、「医療・介護」に興味がある方も履修歓迎です。
 - ・基本的には対面授業を行います。感染状況で、Googleクラスルームを使つての授業となることもありますので、ご了承下さい。
 - ・質問に関してはグーグルクラスルームのコメントにて随時受けつけ、随時、返信を行います。（遅くなる場合もありますので、ご了承下さい。）
 - ・この單元では「体や心のしくみ」と「ICF」について重点的に学んでいきます。特に「ICF」については、今まで苦手な方も理解出来るようになり、日頃の考え方にも活用できるもので、なかなか学ぶ機会が少ない内容なので、とても役に立つものと思います。
-

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門科目, 関連科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
外国語学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018	3	選択	2
経済政策学科	専門科目, 関連科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 関連科目	2023	3	選択	2
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2010, 2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2020, 2021, 2022	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 関連科目	2023	3	選択	2
多文化コミュニケーション学科	専門教育科目, 学科関連科目	2019, 2020, 2021, 2022, 2023	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
教育相談・カウンセリング（教職）	後期（集中）	B08308625507Z, E07305725507Z, F12310325507Z

教員名
内野 成美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	教育現場における不登校・いじめなどに関して学校の取り組みの現状、スクールカウンセラーの関与の実際を紹介する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択
------------	-----------	-----------------	-------------

授業の概要
本講義では、学校で教師が教育相談をおこなうにあたって有しておくべき知識を身に着ける。まず、いろいろな相談場面での教師の役割・ありかたについて説明し、つづいて教育相談に関連する心理学（カウンセリング）の知識を伝える。これにより、知識・技術力および多文化理解力を高める。講義中、学問的な情報の伝達に加え、ロールプレイやグループ・ディスカッションなどの体験的な活動も組み込み、コミュニケーションスキルや問題解決力を養う。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
教職課程履修者は同時期に開講される「生徒・進路指導論」を受講しなければならない。

学習上の到達目標	授業の到達目標
達成評価指標	レベル
知識・技術力	3
	1 専門知識に基づいて生徒の気持ちを理解しようとする教師になること。

コミュニケーションスキル	3	2	学校内でのチームワークを重視する教師になること。
社会的関係形成力	3	3	保護者と良好な関係をもち、アドバイスができる教師になること。
多文化理解力	3		
問題解決力	3		
自己実現力	3		

講義等の計画	
第1回 テーマ：オリエンテーション	
第2回 テーマ：教育機関としての学校、組織としての学校	
第3回 テーマ：担任教諭の役割	
第4回 テーマ：生徒指導	
第5回 テーマ：教育相談・1：生徒の心の理解	
第6回 テーマ：教育相談・2：生徒の心の病気の理解	
第7回 テーマ：教育相談・3：生徒と教師の関係	
第8回 テーマ：教育相談・4：保護者と教師の関係	
第9回 テーマ：教育相談・5：教師同士の関係、管理職者との関係	
第10回 テーマ：カウンセリング・1：クライアント中心療法	
第11回 テーマ：カウンセリング・2：行動療法と認知行動療法	
第12回 テーマ：カウンセリング・3：精神分析療法と箱庭療法	
第13回 テーマ：カウンセリング・4：いじめ問題へのカウンセリング	
第14回 テーマ：カウンセリング・5：発達障害を有する生徒へのカウンセリング	
第15回 テーマ：カウンセリング・6：不登校生徒へのカウンセリング	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容		
予習：	関係する書籍・論文を読む	20時間
復習：	授業中に配布した資料や紹介した文献を読む	40時間

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この授業に含むアクティブラーニング要素	
外部機関と連携した課題解決型学習	☐
ディスカッション、ディベート	☐
グループワーク	☐
プレゼンテーション	☐
実習、フィールドワーク	☐
その他のアクティブラーニング	☐
具体的な内容	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している ☒ 実施していない

成績評価基準・方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

用いない。毎回、プリントを配布し、そのプリントに沿って講義をおこなう。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

『学習指導要領』

他の参考書については、講義内容に応じ、その都度紹介する。

履修上の注意事項や学習上の助言

教職課程履修者の場合、本講義は「必修科目」である。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 地域政策コース	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 地域政策コース	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 関連科目	2023	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2020, 2021, 2022	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 関連科目	2023	3	選択	2
多文化コミュニケーション学科	専門教育科目, 学科関連科目	2019, 2020, 2021, 2022, 2023	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
生涯学習・社会教育論（教職）	前期（半年）	B08308725506Z, E07305825506Z, F12310225506Z

教員名
菅原 良子

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	環境学習をテーマに講師を務めている方に来ていただき、実際に地域でおこなわれている講座と同じように自然物を教材とした出前講座をしていただき、社会教育・生涯学習での学びを体験する。また、可能であれば行政の社会教育担当者や社会教育士の資格を持っている方に、行政や現場の社会教育・生涯学習の取り組みなどについて講義していただく予定である。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区 教職課程上の必修/選択
------------	-----------	----------------------------

授業の概要
本科目は、社会福祉学科・外国語学科・経済政策学科の専門教育科目であると同時に、教職に関する科目の「教育の基礎的理解に関する科目等」における「教育の基礎的理解に関する科目」の「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に位置づく教職課程科目である 社会教育とは学校教育以外の領域で組織される多様な教育・学習活動を指し、その特色は地域を基盤として自主的な学習として展開されるところにある。近年は学校教育との連携もすすんでいる。日本では1980年代に生涯学習政策が導入されて以降、社会教育と学校教育の在り方が大きく変わってきている。本授業では、社会教育とは何か、生涯学習とは何か、社会教育・生涯学習の歴史と理念などの生涯学習と社会教育に関する基本的な事項について学ぶとともに、社会教育と学校教育の対比や連携、社会教育と生涯学習との違い、学習の必要性和多様な学習のあり方などについての理解を深めていく。講義だけでなくグループワークもとりいれながら授業を進めていく。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

日ごろから地域で行われている教育について興味・関心を持ち、生涯学習と社会教育について自分なりに調べておくこと。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	3	1. 生涯学習とは何か、社会教育とは何か、生涯学習・社会教育の必要性や多様な学びの内容・方法について、自分なりに理解し、説明することができる（知識・技術力）
コミュニケーションスキル		2. グループワークの中で、自分の考えを述べ、他者の意見にも耳を傾けながら、協力してワークを進めることができる（社会的関係形成力）
社会的関係形成力	2	3. 自分とは異なる意見や価値観。文化について理解しようと努めるとともに、様々な事象について多角的な視点から捉えることができる（多文化理解力）
多文化理解力	2	
問題解決力	3	4. 地域や教育・学習に関わる様々な問題の事象や背景について多角的な視点から捉え分析するとともに、具体的な解決策を複数提示することができる（問題解決力）
自己実現力		

講義等の計画	
第1回 テーマ： 授業の目的と概要、到達目標や評価方法の説明 社会教育・生涯学習の概念	キーワード：教育、生涯学習、学校教育、家庭教育、社会教育、地域 課題：シラバスを読んでくこと
第2回 テーマ： 生涯学習・社会教育とは1 社会教育と生涯学習	キーワード：生涯学習、学校教育、家庭教育、社会教育 課題：生涯学習とは何か
第3回 テーマ： 生涯学習・社会教育とは2 学習とは何か	キーワード：生活と学習、学校・家庭・社会・地域
第4回 テーマ： 生涯学習・社会教育とは3 学習の必要性	キーワード：教育、学習、知識、経験、人間の発達 課題：生涯学習と社会教育の違いについて
第5回 テーマ： 社会教育の歴史と理念① 戦前・戦中期	キーワード：通俗教育、成人教育、教化、青年団 課題：アメリカの占領政策
第6回 テーマ： 社会教育の歴史と理念② 1945年～1960年代	キーワード：民主主義、自己教育
第7回 テーマ： 生涯学習論の登場と社会教育の歴史と理念 1960年代～現在	キーワード：公民館、権利としての社会教育、社会教育と生涯学習 課題：4つのテーゼ
第8回 テーマ： 社会教育・生涯学習をめぐる国際的な動向	キーワード：ユネスコ、P. ラングラン、E. ジェルピ、学習の4つの柱 課題：4つの柱
第9回 テーマ： 学習権宣言の意義と内容	キーワード：ユネスコ、学習権宣言 課題：学習権宣言の意義
第10回 テーマ： 生涯学習・社会教育の法と制度	キーワード：社会教育法、図書館法、博物館法、生涯学習振興法 課題：：社会教育法・図書館法・博物館法・生涯学習振興法
第11回 テーマ： 生涯学習・社会教育の施設	キーワード：公民館、図書館、博物館 課題：生涯学習・社会教育に関する施設を一つとりあげ調べてくる
第12回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び① 地域でおこなわれている学習活動（ゲストティーチャーの予定）	キーワード：自然 環境 体験 学習素材・教材
第13回 テーマ：	キーワード：行政 公民館 地域

生涯学習・社会教育における学び② 地域での実際の取り組み (ゲストティーチャーの予定)	
第14回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び③ 社会教育・生涯学習と学 びの多様性	キーワード：社会教育士 地域 学び
第15回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び④ まとめ	キーワード：生活と学習、学校・家庭・ 社会・地域、コミュニティの再生
第16回 テーマ：	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

日ごろから学習の意味について考えるとともに、毎回の授業後にプリント・ノートを見返し、疑問点などを調べたり質問したりするなどの復習を行うこと。授業中に提示された課題にとりくむこと。
また、参考文献を最低1冊は読むとともに、実際に自分が住んでいる地域にある生涯学習・社会教育施設を一度は訪ねること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の課題及び最終レポートについては、以下の方法のいずれかにおいてフィードバックを行う。①授業中の解説、②授業中もしくはメールやgoogle classroomなどの採点欄による添削結果の返却。

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	☐	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	☒	課題テーマについて、グループワークやディスカッション及びその結果や事前学習内容に関するプレゼンテーション
グループワーク	☒	
プレゼンテーション	☒	
実習、フィールドワーク	☐	
その他のアクティブラーニング	☐	

この授業で活用する外部試験

☐ 実施している ☒ 実施していない

成績評価基準・方法

毎回の講義で提出してもらう授業レポートと授業への参加態度（30%）、授業中やclassroomの提出課題と試験（70%）により評価する。原則として出席が出席すべき講義回数の3分の2を満たしていない場合は評価の対象としない。欠席・遅刻は減点対象とする。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称
1 片野親義『社会教育における出会いと学び』（ひとなる書房、2002年ひとなる書房）
2 片野親義『学びの原風景をさがし求めて』（国土社、2005年）
3 佐藤一子『地域学習の創造：地域再生への学びを拓く』（東京大学出版会、2015年）
4 大串隆吉『社会教育入門』（有信堂、2008年）
5 国生寿・吉富啓一郎『社会教育と現代的課題の学習』（あいり出版、2006年）
6 千野陽一（監修）、社会教育推進全国協議会（編集）『現代日本の社会教育〈増補版〉—社会教育運動の展開』（エイデル研究所、2015年）
7 寺中作雄『社会教育法解説 公民館の建設』（国土社、1995年）
8 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』第8版（エイデル研究所、2011年）

9 [全国公民館連合会（著）『新訂 よくわかる公民館のしごと』（第一法規株式会社、2017年）](#)

10 [浅井 経子ほか『生涯学習支援の道具箱』（社会通信教育協会、2019年）](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・教職履修者は4年次までの履修が望まれる（本科目は教職課程の選択科目ではあるが、履修が推奨されている）
- ・授業ではゲストティーチャーの方にいらしていただく場合もある。授業の計画については、授業の進行状況や履修者のテーマへの興味関心などにより、計画通り進まないこともある。毎回の授業終了後に授業レポートを提出すること。本授業は教職科目でもあるため、自覚的・主体的な態度を求める。グループワークも行うので積極的な参加を望む。
- ・学外での活動なども授業中に紹介するので、積極的に参加すること。
- ・本授業は天候状況などにより、授業の方法や内容などが変更される場合がある。その場合の詳細については、その都度授業やgoogle classroomなどで説明するので留意すること。

[戻る](#)